

平成二十八年三月一日発行(毎月一回一日)
書 象 第六十四卷 第三号 通卷七二四号

書 象



日本書道芸術協会

2016- 3

古典学習の意義

副理事長 二瓶嶽風

一般的な古典の学習では、一つには技法の修得、一つには作者の精神性やその時代や地域風土の美意識に触れること、さらに鑑賞の力を高め、書に対する考え方を深めていくことにあります。そして古典の特徴や技法を生かして、創作への足がかりとすることです。そのための方法として「臨書」があります。

書象誌では欧陽詢の『化度寺碑』や王羲之の『集王聖教序』、『張猛龍碑』などの古典を学習しています。書象誌の場合の多くは上條信山先生や田中節山先生の臨書されたものを勉強しているわけです。さらに古典の法帖を、自分の目で見て臨書することも原典に迫る意味でとても大切なことです。

この臨書の方法については、上條信山先生が出版された『現代臨書大系』（尚学図書）に「造形芸術としての基礎づくり、表現力育成中心の新しい臨書法」を解りやすく展開されています。また、『上條信山臨書集』（全五巻・書象会発行）も大変参考になります。

さらに書象誌には折に触れ、木曜会での「古典臨書作品」が参考として掲載されています。半切作品の作り方から始めて、上條信山先生の提唱された「写実的」、「印象的」、「表現的」臨書に取り組んでいる姿を読み取ることが出来ます。

現在、書象展や公募展に出品されている作品を拝見すると、いわゆる生粋の『信山バリ』というものは影を潜め、それぞれが学習している古典の味を加味したものが多くみられるようになりました。書象会の書風に広がりが見えてきたと言ってもいいのかもしれませんが、自己の書風を見据えて、どのような古典をその骨格とすべきか、そして『張猛龍碑』から張廉卿、宮島詠士、上條信山という書象会の系譜で、「形」と「精神」がどのように表現されなければならないのか、極めて重要なことと思います。

先生はご承知の通り、王羲之・欧陽詢・顔真卿・張猛龍碑など沢山の古典を自家葉籠中のものとされました。また古典の学習にあたっては殊に唐以前の古典を重視されており、いずれも精緻、清澄、勁峻で精気に満ち溢れたものです。ただ、「自分らしい書の確立」とはいえ、やみくもに古典を選択するわけにはいかないでしょう。言うまでもなく、視覚的に面白ければ良いというものでもありません。根底に上條信山先生の「精神」が宿るものであってほしいものです。そのためにも私たちは合宿や添削会など機会あるたびに先輩諸氏の作品制作の書きぶりに積極的に触れ、また適切で効果的な用具用材に出会う努力をしてみましよう。

さあ、もう一度原点に返って古典学習に取り組んでみましょう。



白雲幽石を抱く（寒山詩）

3月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付
手本は罫線入りですが、出品者は罫線のない半紙を使用してください。

楷書臨書規定【臨規】（師範・準師範・段位）

化度寺碑

上條信山先生書



太原介休人。昔

3月20日必着
出品券を貼付

右払い、左払いに注意しながら習っていく。イ四つの右払いは大胆に伸びやかに払う。ロ長短の左払いは方向・長さに注意して腕全体で払う。

太―左払いは縦気味に、右払いは強く水平に払う。

原―「太」同様、左払いは縦気味にして長く伸びやかに。

介―左払いは短く直線的に。右払いは左半分に対応する様に大きく大胆に払う。

休―二つの左払いの方向、長さに注意。右上の点は古典通り。

人―左払いと右払いのつりあいを保つことが大切。

昔―「昔」の二つの縦画が相対するように。

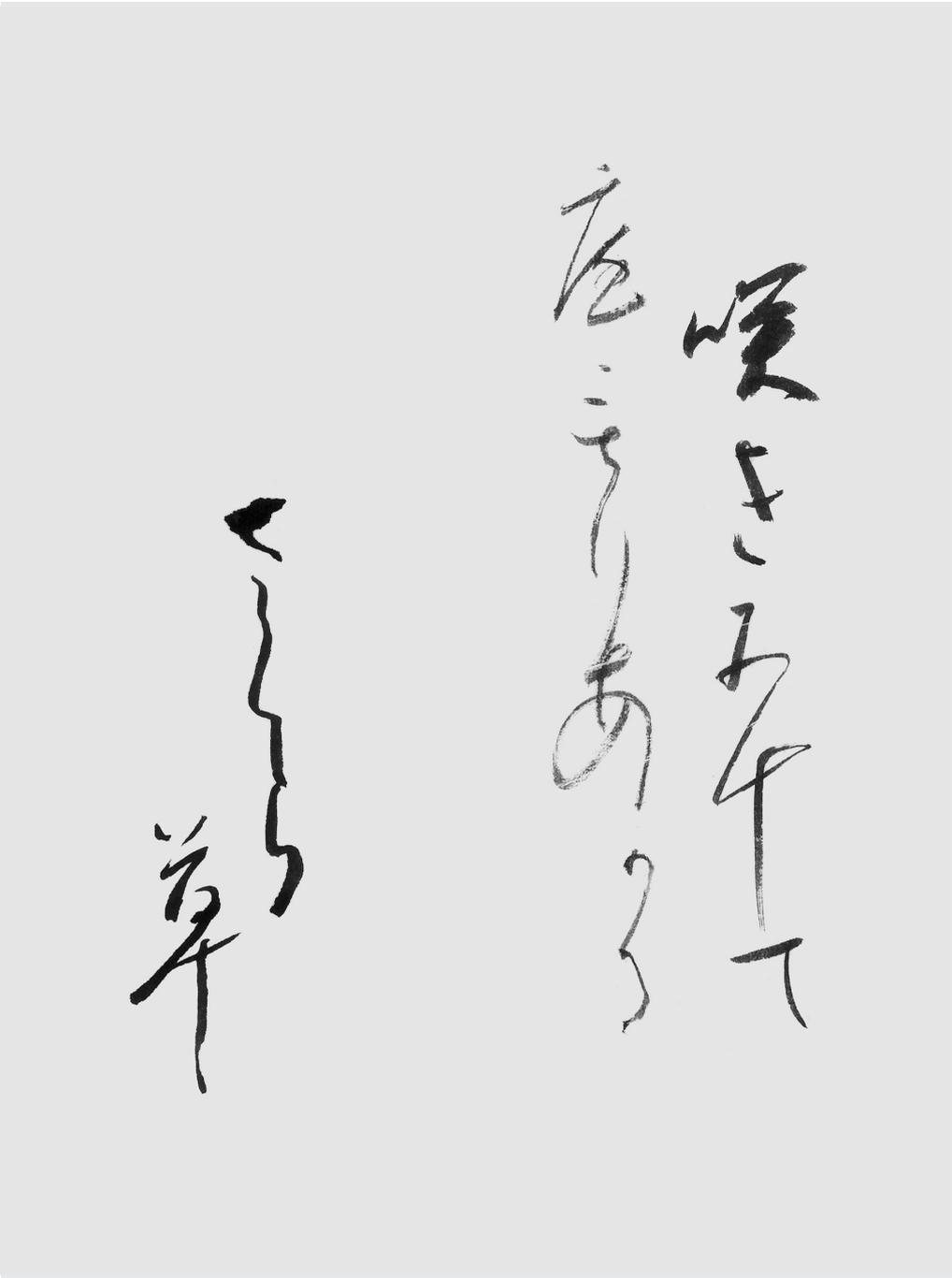
禅師



- ・中心線の位置をしっかりと確認する。
- ・偏とつくりのバランスに注意する。

仮名規定【仮規】（師範・準師範・段位）

上條信山先生書



咲きみち（千）て庭も（毛）りあが（可）るさくら草

3月20日必着
出品券を貼付

・空間の広さを適切に捉えて配字しましょう。

・各行の傾きや、文字の大小による流れをつかむまで、何度もなぞり書きをしてみましょう。

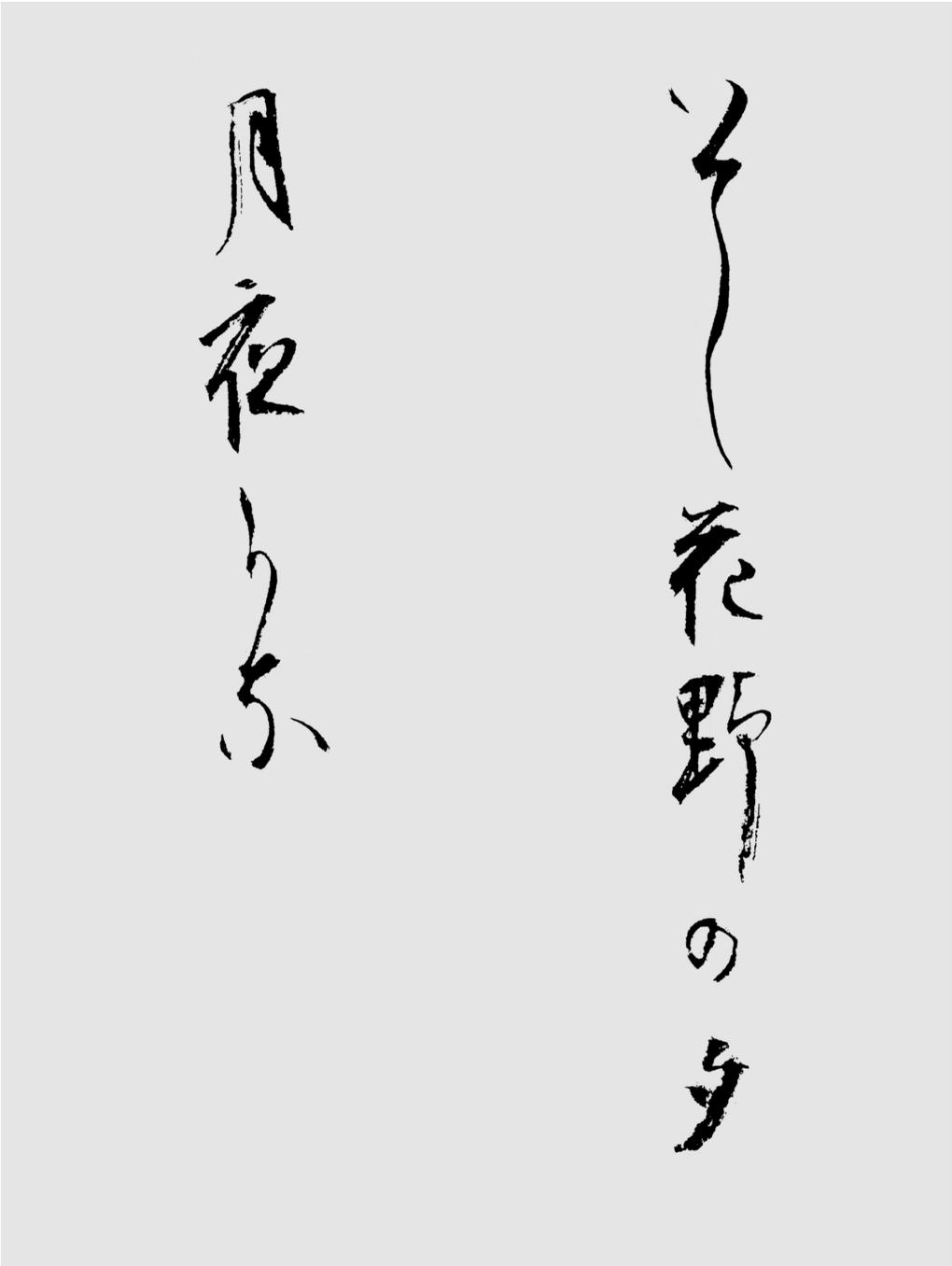
・渴筆の二行目がアクセント。細く枯れた線ではなく、ふっくらと温かみのある線で。

「庭」

「草」

仮名規定【仮規】（級位）

上條信山先生書



いでし花野の夕月夜か（可）な（奈）

・中心線を意識して書きたい。

夕

月夜ふ

〔野〕

野

〔月〕

月

〔夜〕

夜

研究【研究】

張猛龍碑

田中節山先生書

周漢

周漢

3月20日必着

出品券を貼付

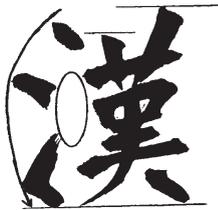
入選作のみ発表します

ポイント

周：第一画を向勢にし、第二画の縦は背勢に作る。



漢：さんずいは向勢にして、つくりとの空間を広くとる。



隷書条幅規定【条規】

上條信山先生書

段級位を明記のこと



雨到って、琴書潤う

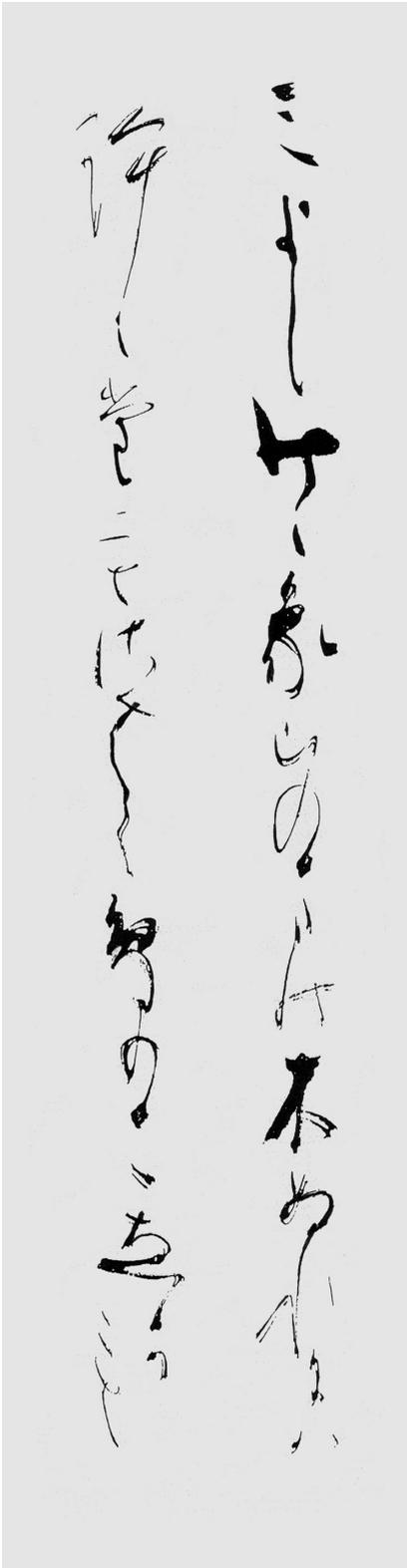
- ・「到」の最終画は垂直気味に伸び伸びと一気呵成に抜く。
- ・「雨到琴書潤」はP14参照。

仮名条幅随意【条随】

上條信山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付



み(三)よしの(能)ゝ象山のま(万)の(能)木ぬれに(尔)は(八)
 こ(許)ゝだ(堂)も(毛)さ(佐)は(者)ぐ鳥のこえ(恵)か(可)も(毛)
 (万葉集)

- ・縦への流れを意識して、伸びやかに運筆する。
- ・「象」「鳥」はP14参照。

祝 門 出 立

中学一年規定 【学毛】

杉山曉雲先生書

王 正 會 院

中学二・三年規定 【学毛】

高田墨山先生書

の 学 門 校

小学五年规定 【学毛】

樋口玄山先生書

草 原 美 心

小学六年规定 【学毛】

畑中高山先生書



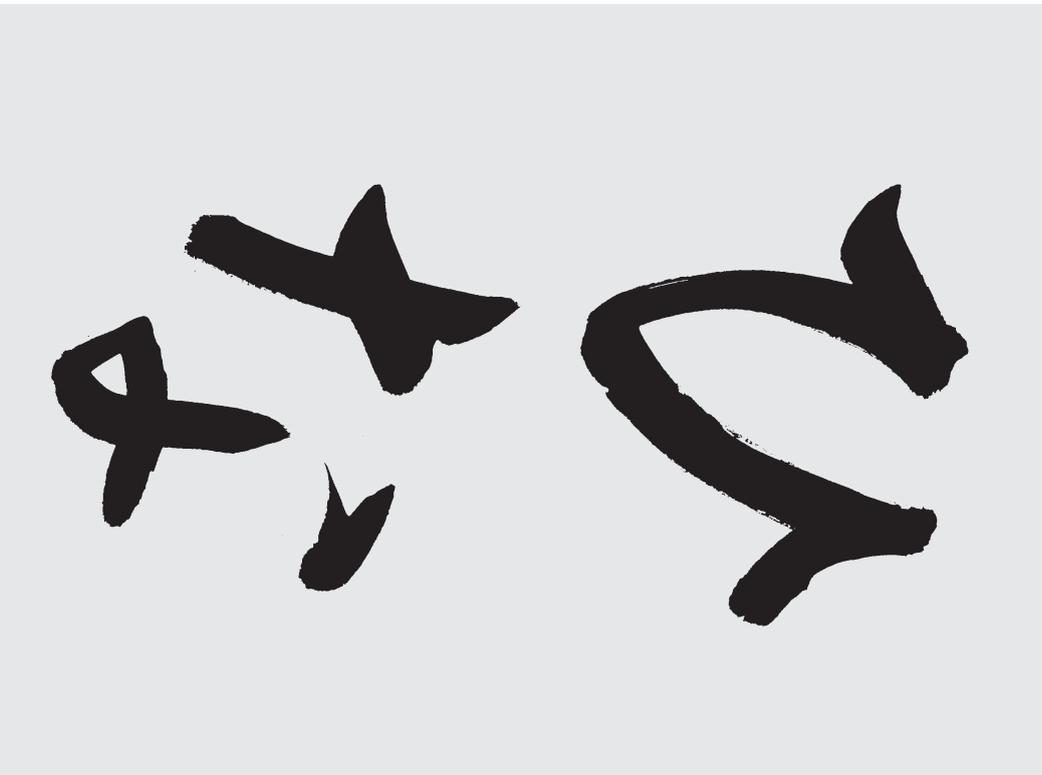
小学三年規定 【学毛】

大島校山先生書



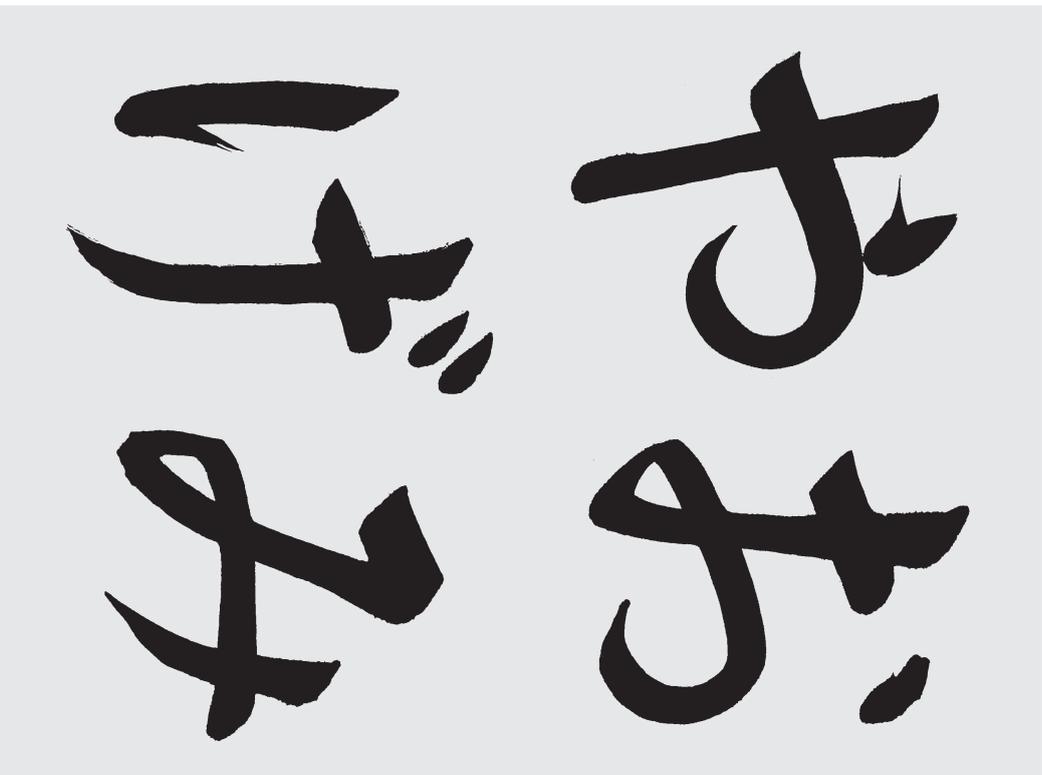
小学四年規定 【学毛】

石丸晴風先生書



小学一年規定 【学毛】

竹内墨洋先生書



小学二年規定 【学毛】

恩田静月先生書

硬筆規定

一般規定【一硬】(師範・準師範・段位)

上條 信山 先生書

声なくして人を呼ぶ徳のある人の回りに(尔)は自然に人が慕って集うの(能)が(可)自ぜんである。

声なくして人を呼ぶ徳のある人の
回りに人は自然に人が慕って集う
やがて自ら集う。

一般規定【一硬】(級位) 枕草子

内藤 望山 先生書

春はあけぼのやうやう白くなりゆく
山ぎはすし〜あかりや紫たちたる
雲の細くたなびきたる。

中学規定【学硬】

山口 啓山 先生書

失敗の多い曲線を歩む方が
効率の良い直線を行くより
役に立つ事がある。

小・中学生随意課題【学随】

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選作のみ発表します。
出品券を貼付して下さい。

小 一・二年 学	花	小 三・四年 学	植
小 五・六年 学	勇氣	中 学	将来

手本解説

・基本 「雲」「幽」は左図参照。

雲 幽

・隷書条幅規定 「雨到琴書潤」は左図参照。

雨到琴書潤

・仮名条幅随意 「象」「鳥」は左図参照。

象 鳥

学生部規定



中学二・三年

「正」は画と画との間を等しく。「倉」は
一・二画目の左右の払いの関係をよく見
る。「院」は偏と旁のつり合いに気をつ
ける。「国」は玉の大きさに注意して書
く。「宝」の長い横画はのびやかに。



中学一年

「門」の両縦画は内側にそる気持ちで。
「出」の一画目の縦画は力強く、その左
右をバランスよく。「を」は三画目を右
に張り出す。「祝」は偏より旁の背が低
い。「う」は一画目を中心線上に。

小学五・六年規定【学硬】

柳澤玄嶽先生書

交通事故を防ぐには、歩行者と運転手の両方が気をつけるべきである。

名前

支部 年

級段

小学三・四年規定【学硬】

竹内藍山先生書

春はあざやかな色の花とうれしそうに鳴く鳥に心がはずみまます。

名前

支部 年

級段

小学一・二年規定【学硬】

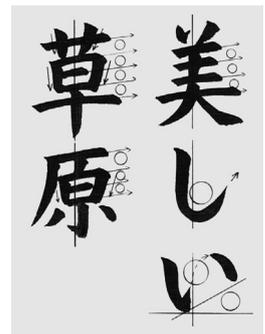
西野江月先生書

す	な	は	ま	を	あ	る	い
て	小	さ	な	貝	を	見	つ
け	ま	し	た	。			

なまえ 支部 年 きゆう

※出品券を貼付して下さい。

一般（師範・準師範・段位）・一般（級位）・中学生はペン使用のこと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。作品の大きさを下へ18cmよこ7cm小へ1・2課題下2.1cmのマス目の紙を使用する。小三・四・五・六課題下2.1cm巾の野線を引く。



小学六年

「美」は中心からの横画の長さに気をつけ左右の払いでバランスをとる。「草」は八画目の横画を長くして上部をささえる。「原」は二画目とのつり合いから「京」をやや右に寄せる。



小学四年

「仲」の「中」は縦画が口の中心を通る。「間」は門構えの左右のバランスをとり、中に入る「日」の大きさに気をつける。「た」の二画目の斜画は力強く引く。「ち」の二画目は文字の中心から書き出す。



小学二年

「お」の二画目はまっすぐおろし、点の位置は高めに。「み」は三角形を作るように。「や」は三画目の長さと同様に気をつける。「げ」は一・三画目の始筆の位置に気をつけ少し丸みをおびる。



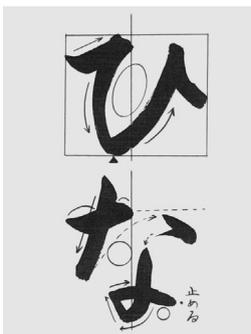
小学五年

「学」の「讠」は筆順は正しく、「の」の始筆と終筆、子のそりに気をつける。「校」は木偏と旁の組み立てに気をつける。「の」は文字の中心から始筆し、中心で払いが終わる。「門」の両縦画は内側にそる。



小学三年

「春」は上部の三角形と目をバランスよく。左右の払いをゆったりと長めに書く。「を」は縦長の字形で中心線上から書き出す。「よ」は筆順に注意。「ぶ」の外形は正三角形で二画目のまるみに注意。



小学一年

「ひ」は形がとりにくい字であるが、▲で止めることを意識させると字形を整えやすい。「な」は点の位置によって文字の形が決まるのでその位置に注意する。

争坐位文稿

顔真卿 (七〇九〜七八五年)

今月のテーマ

表現的臨書 (B)

大字 (二字〜六字)

書き方

- ① 文字数を間違えないで出品して下さい。
 - ② 続き文字でなくても構いません。
 - ③ 落款を入れて下さい。
 - ④ 作品の表左下に、支部名と氏名又は号を鉛筆で記入して下さい。そして制作意図も書いて下さい。
- 古典研究の出品券を貼付して下さい。
(編集部)

表現的臨書

(B) 形に主観を加える

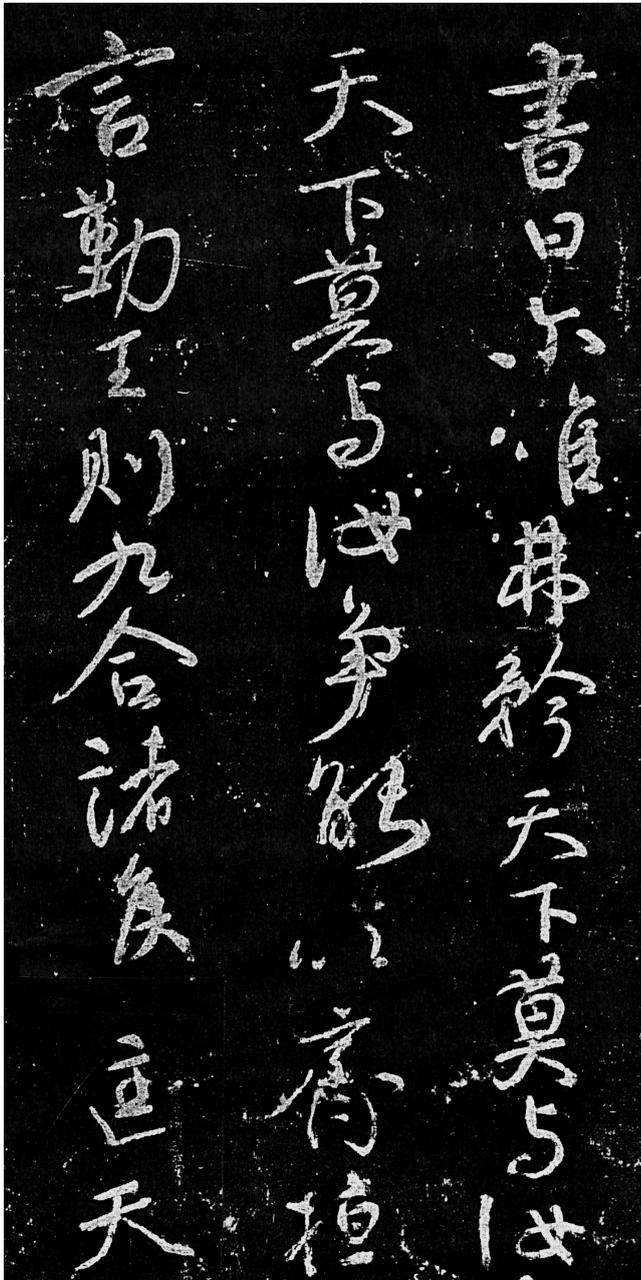
〈ねらい〉 古典の特質を失わない範囲で、出来るだけ形のデフォルメを行い、創作の香りの強い臨書をする。

〈学習①〉 対象古典の中から一字を選び、その特質を生かしたままで、思い切り縦長に強調してみる。次いで思い切り扁平に書いてみる。

〈学習②〉 次のねらいのもとに、対象古典の特質を生かして表現的臨書を試みる。

⑦ 頭部を大きく強調してみる ⑧ 下部を大きく強調してみる

〈学習③〉 さらに創作に近づけて、対象古典中の二〜六字ぐらいを、大小、長短等の全体構成をも考えて、表現的臨書Aの線表現をも駆使して、作品風の臨書を試みる。



〈釈文〉 書曰爾唯弗矜於天下莫與汝天下莫與汝爭能以齊桓言勤王則九合諸侯匡天

「硯上の塵」を読む47

どこまでも伸び行く左ハライ、信山流を習いはじめると必ずみんなやってしまうのがこの左ハライ、長すぎちゃったり細かったり、かっこよくしようとしては逆に弱点になってしまふ。この作品からその印象が強まったのではないでしょうか。右ハライもそうです。絶対忘れられない、一度はやってみたい、画仙紙から出ちゃいそうな勢いを感じる書の代表作品登場です。

第九章 作品十選

4、堅勁 昭和四十四年 一三三×六一糎
改組第一回日展出品作品。この年、日展が再び改組されて、日展の



「堅勁」
(昭和44年 133×61糎)

理事制が強まり、かつその定年制が施行されたことにより、運営上に大きな組織替えが実施された。この年も私は審査員に加えられていたが、組織的な改組が重なって、精神的な緊張に包まれていた。この近二年の日展出品作品は、いわば私らしくないものであった。一昨年は隸書を淡墨で「篤敬」、昨年は戴叔倫の五言絶句を横額に行草の連綿体で書いていた。

確かに自己を否定し、自己から脱皮することは大切であるが、いつまでも自己に背を向けてばかりいることもおかしなことである。改組第一回日展とは新たな始発点を意味する。当時、私は六十二歳であった。そろそろこれまでの自己否定を糧としながら、逆に打って出て、自己の書法を前向きに確立しなくてはならない時期であった。自己の書法を最も自分らしく、明確に、そして鮮烈に表現したい。

そこで選んだのが、この堅勁の二字であった。これをこの語の意味にふさわしく、堅く強く、何物にも妥協しない強固な印象を打ち出せないものか。紙は中国製の羅紋箋。墨は鉄斎の濃墨。羅紋箋は翠軒翁が愛用され、淡墨に向くとするのが通識であったが、濃墨の場合でも使いたいようによっては微妙な線質がデリケートに現れて、作品が非常に生きることがある。この二文字を、紙面いっぱい自己の筆力でうめ尽くそう。

まず、「堅」背勢に、点画も方筆の鋭さを見せて、文字どおり堅い印象に書く。一方の「勁」はこれとは対照的に向勢に、点画も起筆を蔵鋒にして丸みを出すことにとめる。空間への飛墨の効果と、その反対の方向に働く左払いの渴筆の動きは、墨量、筆力ともに余裕が見えて、ひとまず自己の満足できるものであった。なお、この作品で日展最高賞の内閣総理大臣賞を拝領した。

上條信山 × 池上百竹亭 × 田村一男

トリプルアタック!

コレクションとの新たな出会い

松本市美術館の核心をなす三つコレクションから、新たな視点で捉えた作品群を展覧いたします。上條信山が厳しく追い求めた書の世界、山や高原をこよなく愛し描き続けた洋画家・田村一男の作品、そして池上喜作（百竹亭）の蒐集した文芸美術資料、これらのコレクションが一堂に会し、それぞれの魅力を声高に主張します。三人が生涯を通じて持ち続けた気概が、如何にまっすぐで輝いていたか、辿り着いた清澄な境地とは…。作品展示に底流するキーワードは、「光」。色や形態としてのみではなく、人の心根を貫くものとして、明るくのどかに温かく、ときに鋭く鮮烈に現れる「ヒカリ」を感じとってください。

会期／平成28(2016)年2月13日[土]～4月3日[日]

※休館日：月曜日（祝日の場合は次の最初の平日）

会場／松本市美術館 企画展示室

主催／松本市美術館 共催／市民タイムス、松本平タウン情報

協力／一般財団法人 松本市芸術文化振興財団、松本市美術館 友の会

観覧料／大人410円(310円)／大学高校生200円(100円)

※（ ）内は20名以上の団体料金

※70歳以上の松本市民・中学生以下無料

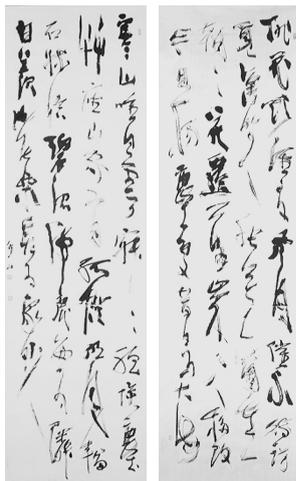
障害者手帳携帯者とその介助者1名無料

その他／ご来場の方全員に鑑賞ツアーガイドを無料でプレゼントいたします

上條信山 — 筆墨の光 —



《雲開》1984年



《寒山詩五律二首》1983年



上條信山（1907－1997）



《遊月》1982年

松本市美術館上條信山記念展示室参観 早春の信州 湯の旅・花の旅



恒例となりました松本市美術館参観一泊の旅。今年は美術館の特別企画「トリプルアタック」の開催に併せた三月に実施いたします。美術館の核心をなす三つのコレクション（上條信山・池上百竹亭・田村一男）が一堂に会し「光」をテーマに展観され、信山先生の名作「遊月」、「光」等が鑑賞できます。また、上條信山記念室では、信山先生の代表作十点の他、宮島詠士七点、張廉卿三点の作品が私達を迎えてくれます。期待しましょう。

今年の宿には、美ヶ原温泉人気の割烹旅館「桃山」の予約ができています。ここを拠点に、二日目は松本の奥座敷、四賀地区を訪ねます。国内最大規模を誇る野生福寿草の群生地として有名で、川沿いの広大な斜面が無数の福寿草で輝きます。

美の旅、湯の旅、花の旅、早春の信州を満喫してください。奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

期 日 三月十五日(火)・十六日(水)

費用 一万五千元 (宿泊費・二日目の昼食代・松本市美術館入館料・バス代等を含む)

行程 三月十五日(火) 現地松本駅午後一時集合く松本市美術館く市内観光

三月十六日(水) 午前九時出発く四賀地区観光く福寿草祭りく昼食く

午後二時松本駅解散

申込締切 二月二十九日(月) 書象会本部までお電話ください。

(0422・53・9743)

定員 (三十名) になり次第締め切ります。

※なお、松本駅までの往復交通費は含まれておりませんのでご承知おきください。

書象会



第57回 有山社書道展

会期 一月十三日(水)～十七日(日)
 会場 セントラルミュージアム銀座
 (紙パルプ会館五階)

賛助出品

田中節山



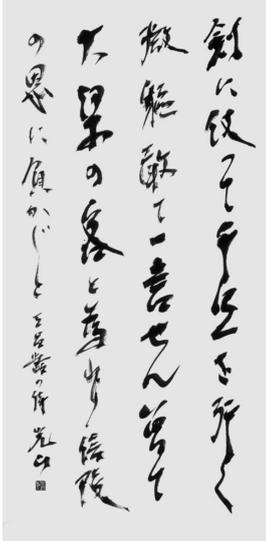
市澤静山



内藤望山



山口啓山



萩田光山



樋口玄山



杉山曉雲



恩田静月



柳澤玄嶽



藤森大節

松村野色昏
雙雨盡
青鐘聲
茶日物

小淵石峯

半山雪口雲
祥
純
松
塵
草
塵
心
如
有
紅
燈
明
月
搖
石
林
吹
碧
浪
荒
鹿
每
為
伴
自
言
淡
出
居
深
長
白
象
外
一
竹
山

久保妍山

凡
急
天
高
猿
嘯
哀
洛
隨
沙
白
鳥
飛
迴

末永曉華

花
下
忘
歸
因
美
景
樽
前
勸
酒
是
香
凡

竹內藍山

生
當
復
東
歸

宮本耕成

澄
潭

鈴木春鳳

硯池春暖
墨花飛

関
香
風

廣武城邊逢暮
春汶陽歸客淡
浴巾花安
啼山鳥楊柳青
青渡水人

竹
内
青
紗

梨花淡白柳深青
柳絮飛時花滿城

西
野
江
月

鳥ヨリ下リテ鄭城ニ登レバ城空シクシテ後ヲ行カ見テ東風
野次ヲ吹テ暮ニ入ル飛雲殿城宮南ノ口ヲ望ミ隱台ニ對スル
漳水東流シテ後ヲ回ラズ武帝ノ宮中人云リ景久年ニ
ノ春色誰ガ為ニカ来ル考案ヲ待古鄭城ニ登リ華雪カク

渡
辺
華
雪

萬壑生對衆天

露
崎
玄
峯

第四十回全日本高等学校書道教育研究会山形大会 報告

会期 平成二十七年十一月五日(木)・六日(金)
会場 山形県山形市「山形テルサ」
大会テーマ 「芸術文化を理解し、尊重する書道教育」郷土を愛する豊かな人間性を求めて」

平成二十一年に改訂・告示された高等学校書道指導要領は平成二十五年より年次進行で実施され本年度で完成年度を迎えました。全国の高等学校における書道教育の振興を図ることを目的とし全国の高等学校書道担当教諭で組織された全日本高等学校書道教育研究会(以下、全高書研)では、高等学校における書道教育に関する研究ならびに調査、会員相互の研修・情報交換、そして現行学習指導要領の趣旨を踏まえた継続的な授業実践研究を進め、その成果を年1回の全国研究大会で発表しています。

創設四十五年となった本年度の全高書研全国研究大会は、会場を山形県山形市の多目的施設である「山形テルサ」を利用し、十一月五日(木)、六日(金)の二日間にわたって実施されました。全高書研創設以来、書写書道教育の現場では先駆的研究実践や組織運営を「書象会会員」が担う場面が多く、現在でも各県高等学校書道教育研究会の組織運営や県指定研究員活動、全高書研本部役員としての本部運営など、その重責を書象会会員が多く務めており、書道教員としてその力を全国各地で発揮しています。

今回の全国研究大会には全国から約240名余の高等学校書道担当者が山形市に集まり、公開授業での授業研究や分科会での研究協議に参

加し、また山形大会研究集録に研究成果を寄稿された先生方との意見交換にのぞみました。

本年度の山形大会において発表された書象会会員の研究実践について報告いたします。

・佐藤勇二先生 山形県立楯岡高等学校
研究テーマA「書くことの楽しさを、感得する表現指導」研究授業(公開授業)

『漢字の書「九成宮醜泉銘」を学ぶ』先人の書を生かして』

○地元米沢市の先人である宮島詠士の書を学び、彼の書風・特徴を生かしての「九成宮」の臨書表現の在り方(「意臨」)を考察する臨書学習の授業公開。

・渋谷亜弓先生 埼玉県立白岡高等学校
協同学習による鑑賞学習の授業実践報告

埼玉県教育委員会と東京大学教育支援コンソーシアム推進機構(CORE)との連携による「未来を拓く『学び』推進事業」推進委員としての芸術科書道における研究活動報告。

○研究課題を「楷法の極則を極めよう」字が絶対上手くなる、余白美の法則を探る」とし、生徒間の言語活動を主体とした授業により一つの課題を解決していく「知識構想ジグソー法」を活用した「九成宮」の文字造形理解学習報告。
・佐々木ひとみ先生 山形県立鶴岡北高等学校

「郷土出身の作家『藤沢周平』の作品をみんなで書こう」授業実践報告

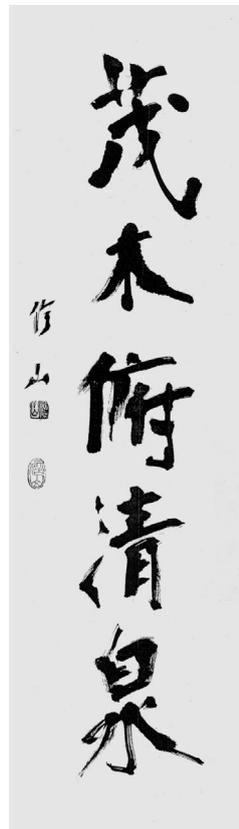
○「漢字仮名交じりの書」の単元において「地域に学び、活かす書教育」として鶴岡市出身の直木賞作家藤沢周平氏の「橋ものがたり(約束)」の作品を読み、その一節を書作品にする授業実践研究報告。

(全高書研担当 小室墨汀 記)



全国大会に集結した書象会会員

書象会通信条幅研究会課題の解説（平成二十八年二月～四月まで）

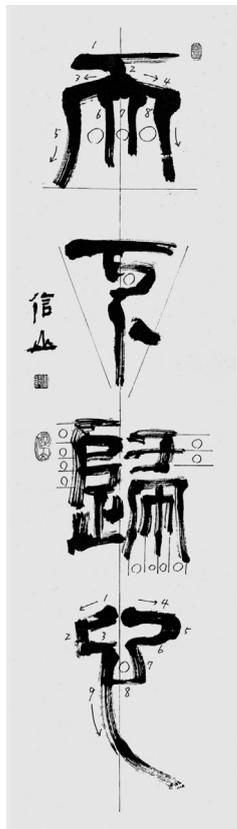


信山流

楷書の一行物。一画一画を慎重に積み上げてガッチリした構造の文字を心がけます。更にはその文字それぞれにガッチリした連係をもたせます。ゆるぎのない建物を作り上げていくような気持でこの五文字に挑みましょう。その鍛錬が行書、草書、仮名にも必ず生きてきます。

今回の課題、少し小さめに書くというのがコツとなりましょう。

隸書



今回は篆書体を取り入れた半切四字なので、文字の大きさや布置の難しい課題ですが、魅力ある作品です。

天…含墨した筆でスピードをつけて線を引くと渴筆の線が出ます。

下…本来は三画なのですが隸書ではこのように書き平凡さを破っているのです。

帰…画数が多いので、等間隔に留意して一気に書く。

心…一画一画を切りながら形をつくり、収筆の波瀾は途中で筆先が浮き上がることのないように筆を開き、ひと呼吸おいてから払い出します。

注意点は、字形をタテ長に蔵鋒（逆筆）で水平・垂直・等間隔に留意して書きましょう。

仮名



・全体を見ると一行目の「支ミ」と二行目の「わ」を大胆に大きく書き始め、下半身はやゝ小ぶりに収めているのが特徴です。

・文字の大小の変化に留意して、軽快かつリズムミカルに書きます。

・句切れにやゝ字間をあけてひと呼吸余韻を持たせています。機械的にならないよう心掛けましょう。

・墨は書き出しの「支」でつけ、一行目下の「わ」で軽くつけて一気に最後まで書き上げます。あくまでも軽やかに爽やかに。

書初め・条幅作品講習会

平成二十七年十二月十三日(日)
於 松本市美術館講座室

今年で五回目のこの講習会ですが、会場の都合で例年より二週間ずれました。おかげで!? 松本地区の県展の展示期間と重なったため、先に信山先生の記念室とあわせて見学をいたしました。年長さんから高校生まで、それぞれのサイズ、それぞれの課題に向けての講習になりましたが、参加者全員がいつもと違った環境であり、新鮮な刺激が、思い切った作品制作に結び付いたようです。最後に恒例の記念撮影をして終了いたしました。今年の参加は高校生一三名、中学生以下九名、引率付添八名、計三〇名でした。

(竹内墨洋記)



黙々と練習する子供たち



一生懸命書けました!!

藤森博士の漢字表記にもの申す⑤

書道学博士 藤森大節

前回の続き、線の長さについてのお話です。

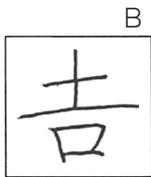
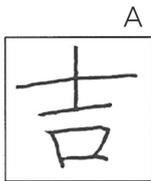
「天」という字を例に考えてみます。「天」は横画が二本で、それぞれの長さは異なります。小学校では一本目を長く、二本目をやや短く書くように習います。普段目にする活字と同じ形です。

もう一つ、「天」には二本目を長くする「許容の書き方」があります。昔から手書きでは二本目を長くする習慣があったからです。楷書の名品「九成宮醜泉銘」にもそのように書かれています。それが『常用漢字表』制定によって、基本は一本目を長く、許容として二本目を長くしても○(正解)に整理されたのです。この他にも「無」、「幸」等の漢字に同じルールが当てはまります。



「九成宮醜泉銘」

では質問です。「よしだ」さんという苗字を聞いて、次のどちらの書き方を思い浮かべますか？



長いのは
上? 下?
?

実はどちらの「よしだ」さんもいるのですが、許容とはちょっと違う理由があります。その続きはまた次回に!

正師範紹介

先生に感謝



遊支部

吉澤遊嘉

この度は正師範の認定を頂き誠に有難うございました。定年後習字を習いたい一心で遊心先生の熱心な指導を戴き、この様な素晴らしい結果へと辿り着きました事、心より感謝いたしております。

これからは「書は一生の稽古なり」を心に刻み一つひとつの出会いを大切に頑張りたいと思います。

どうぞ今後ともよろしく御指導下さいます様お願い申し上げます。

夢を追いつつ

書之会

大島翠 運



この度正師範の認定を頂きまして感激でいっぱいです。お寺生まれのため、いつもお香と墨の香りの中で育った私は、若い頃からいつか書道を学びたいと思っておりました。そしてご縁に恵まれ、針原先生から「一」の文字からお習い致しました。亡き父から「五十の手習いか」と笑われたのを昨日のように想い出します。思うように上達せず、心が折れそうな時もありましたが、何とかここまでこれしたのは、いつもパワフルで真摯にお支え下さいました針原先生のお陰と、心から感謝致しております。

これからも私なりのペースで頑張りたいと思います。

書道と出会って

中勢支部

木下桂歩



この度は、正師範の認定を頂きありがとうございました。書道は幼稚園の頃から習い続けてきましたが、大学入学前に祖母から紹介を受け、森桂香先生と出会い転機を迎えました。特に就職してからは教室を休んでしまう事も多くなり、ご迷惑とご心配をおかけしましたが、いつも優しく迎えて下さり、熱きご指導を頂き本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また、祖母と一緒に習うという貴重な時間でもできました。本当にありがとうございました。

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです)

七年間の感謝



御代田支部 中二

小林来実

おじいちゃんが先生ということに興味を持ちはじめた書道。時には苦しい時もありました。今は、部活や学業で少ししか行けないけども、これからも書き続けたいです。今、一番感謝を伝えたいのは、おじいちゃんです！

特待生になれた

湊支部 中二

伊藤智菜



私は、保育園の時から特待生を目指して、週に一回の時間を頑張ってきました。そして、今年やっとその夢が叶いました。応援してくれた家族、忘れてはならないどんな時も指導をして頂いた先生に感謝したいです。

嬉しい！

北府支部 中二

豊田芽衣



小学一年生から姉と一緒に習い始めた習字。先生の心のこもった指導のおかげで、ようやく念願の特待生に合格することができました。長い間、支えてくださった先生、そして両親と姉に感謝の気持ちでいっぱいです。支部長先生より一言「硬筆二回目の挑戦特待生おめでとう！！芽衣さん以上に先生も嬉しい。この感動を忘れず目標に向って！！」

二冠達成！！



中央支部 中二

阿部乃々楓

私は小学校一年生のときから書道を習い始めました。そして硬筆に続き、毛筆でも特待生をとることができました。今まで指導して下さいました先生には感謝の気持ちでいっぱいです。先生、ありがとうございます。

努力の証

宮地支部 中三

山下雅矢



僕は六年間書道をやってきて、ようやく特待生になることができてうれしです。六年間の努力の結果が出せたかと思う、今まで教えてくださった先生に感謝しこれからも頑張りたいです。

特待生になって

千曲支部 中三

武井恭香



小学三年生から書道を習い始めて、毛筆で念願の特待生になることができました。今まで指導して下さいました先生や、協力してくれた家族に本当に感謝しています。ありがとうございます。これからも頑張りたいです。

支部長先生より一言「特待生合格おめでとう。勉強で大変な中、上手に両立しましたね。次は高校受験ノ自信を持って頑張り。」



△漢字条幅▽ 評 山口 啓山

劍 山 墨痕鮮やかでインパクト強い秀作。

光 紗 腕法が安定した骨力のある力作。

永 翠 品格の高い作風で内面の充実を感じず。

玉 翠 基本に忠実で安定感に満ちている。

智 翠 伸びやかな線質で開放感に溢れている。

琴 月 線・形共一字一字の精度が抜群。

恒 静 余白確保が効果的で爽快感のある作。

峯 山 写実に徹し手本に忠実な真摯な作。

△仮名条幅随意▽ 評 田中 珠光

安蒜小映 大胆な細太のとりあわせを見せた佳作。

西瀉斉花 軽妙で軽快な筆緻が目を引いた秀作。

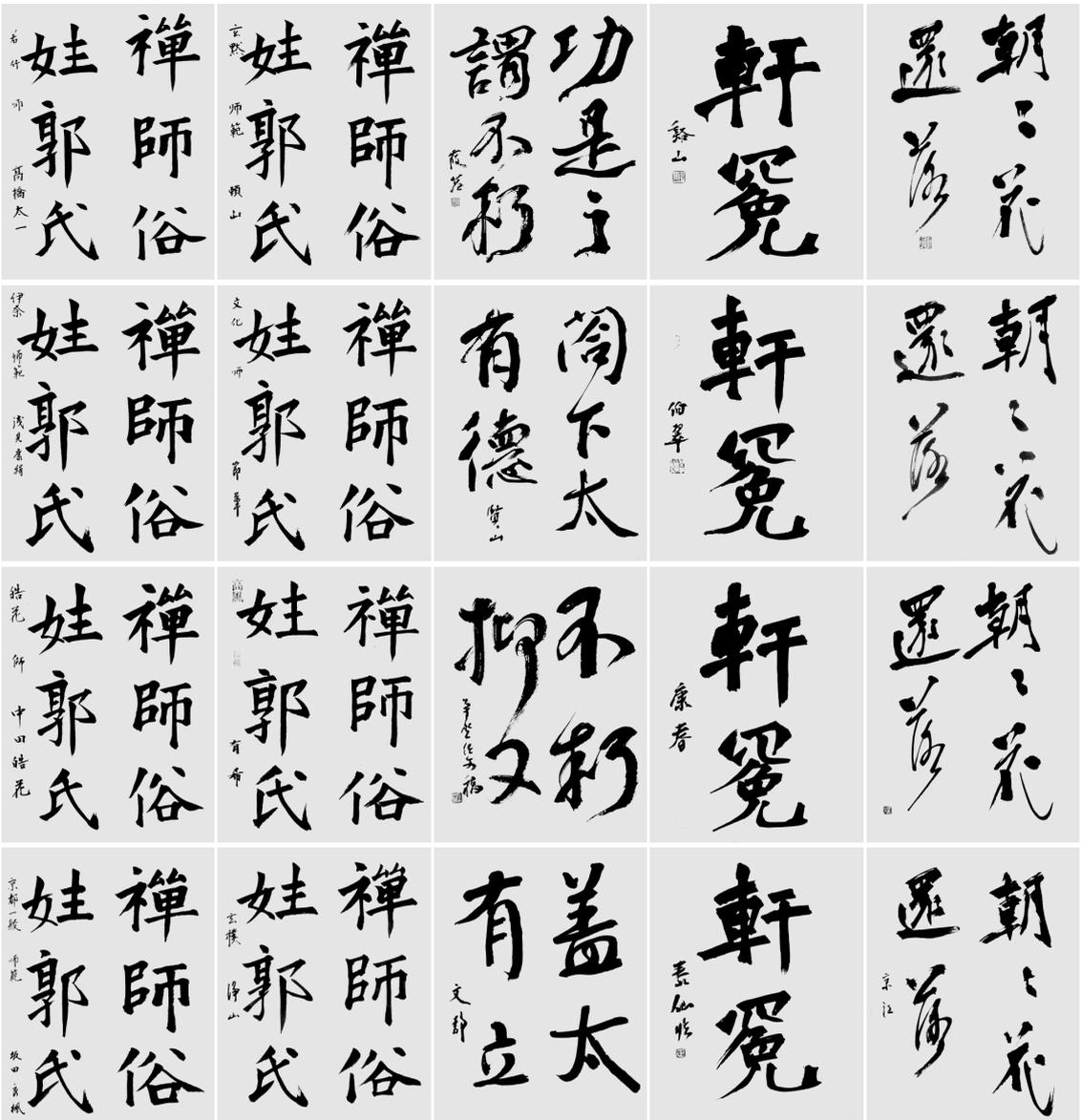
桑野小琇 さわやかな線質の中に骨力を秘めた作。

△通信条幅▽ 評 二瓶 嶽風

塚原花瑶 伸びのある線で力強く仕上げられた作品。

斉藤汀霄 大らかな動きで歯切れよく、爽やかな作。

宿谷硯心 無理のない運筆。カスレにサエあり。



基本課題

評 藤岡 月華

藤澤竹虹 求心力があり、墨色も美しい佳作。
 大山虹霞 形に余裕があり、おらかな作品。
 加藤蘆月 筆勢があり、空間の処理が素晴らしい。
 福山京江 筆のつっ込みが強く、明るい秀作。

研究課題

評 中内 真意

竹本谿山 骨力に富んだ作品で二文字の調和良し。
 針原伯翠 アンバランスを駆使して北魏風を表現。
 西村康春 墨量充分で雰囲気良さが好印象。
 三沢泰仙 一点一画に強さがあり緊張感に富む。

古典研究

評 柳澤 玄嶽

島村霞菫 豪快な筆致で、貫通力もあり顔法習得。
 上條賢山 重厚さと軽快さを兼ね備えている佳作。
 宿谷硯心 腕法よく、弾力と渋味を秘めた力作。
 滝沢文静 ゆったりとした曲線で、忠実に仕上げた。

師範部

△行書▽

評 樋口 玄山

泰 頼山 スッキリと直線的な運筆がよい。
 大山節華 一点一画、慎重な運筆。
 中村有希 字間、行間、余白の明るさが美しい。
 清武浄山 毛の弾力を最大限に引き出している。
 高橋太一 起筆終筆の正確さが線に安定感を見せた。
 浅見康絹 筆圧の強さが印象的。
 中田皓花 墨色の美しさが群をぬく。
 坂田良楓 豊かな墨量で重厚に仕上げている。



仲島秀峰 腕の動きの大きさがこの線を生んだ。

水野友松 位置、大きさ、形、スキなし。

菊地恵爽 「収鋒急」をよく理解している。

田口雅華 筆の持ち方の確かさがよい。

青木小琴 ごまかしのない裏面目な練成態度がよい。

小柳貞松 大胆かつ繊細。高度な技量あり。

光、扇 主画の強調等、形の作り方がよい。

下平成苑 スンナリと伸びやか。ツヤあり。

△仮名▽

評 柳澤 玄嶽

仲島秀峰 全体を強靱な線で統一、流れもみごと。

青柳緑水 瀟洒な明るい作。連綿自然で見事。

田中翠花 各行の位置よく、全体がまとまっている。

山崎恭子 めり張りがあり、線に躍動感をみた。

嶋埜壺玉 遅速緩急を織り込んだ実力ある作品。

吉田雅染 充分な墨量、一気に書かれた佳作。

石原露月 爽やかで、清らかな線、清涼感あり。

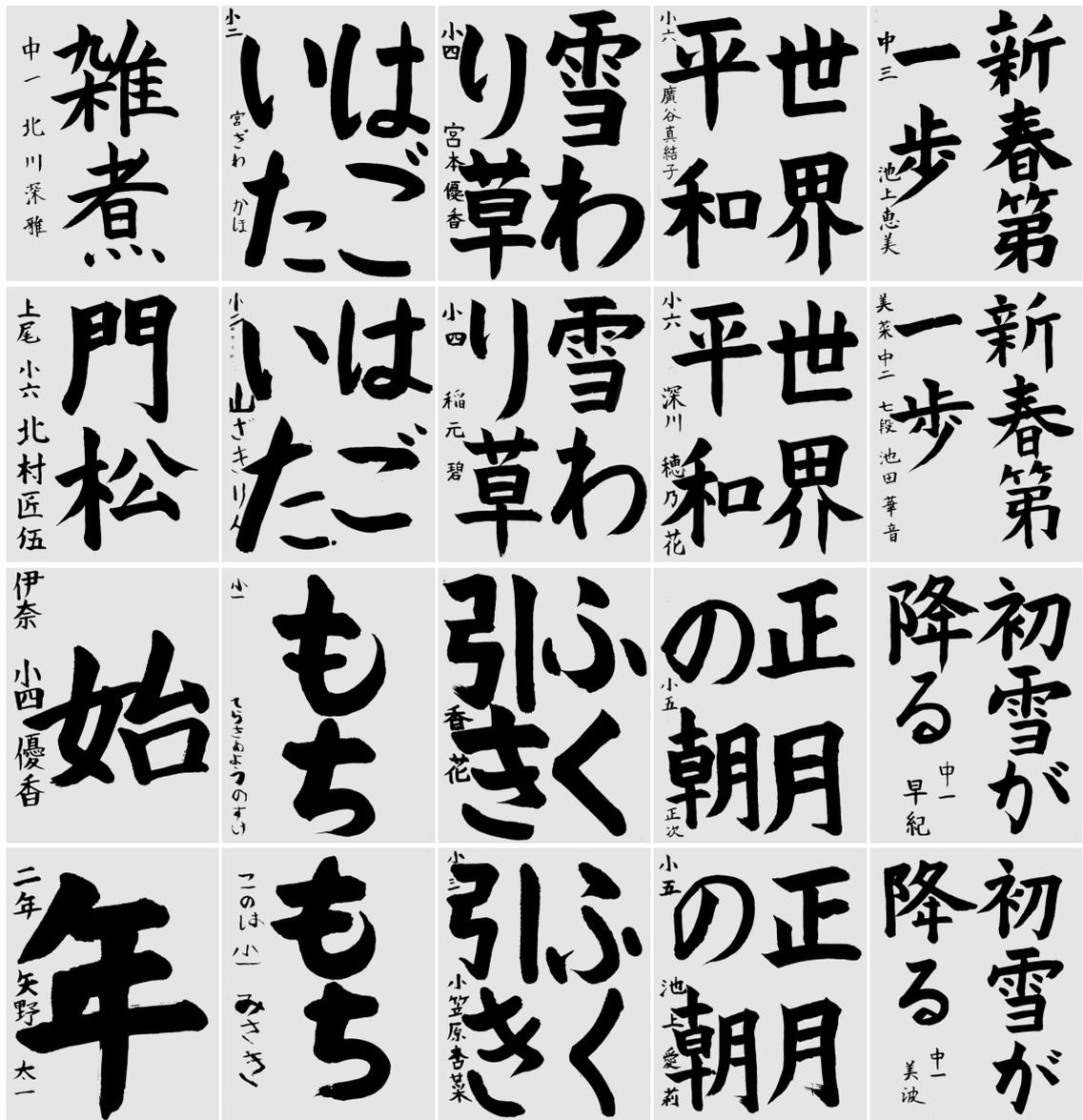
竹内紅雪 伸びのある柔かい線質がすばらしい。

荻原梓虹 形を忠実にとらえ、安定感のある作品。

小泉壺藍 鍊度の高い作品。軽快な運筆で流麗。

野口翠滋 重厚で紙面に食い込む線、みごとな秀作。

稲葉京春 直筆で各行が貫通された。余白も美しい。



学 生 部

評 坂 牛 静 心

池上恵美 注意深く一本一本の線を重厚に仕上げた。
池田華音 隅々まで心を配った、緊張感のある作。
青柳早紀 豊かな線で大らかに書けた秀作。
小田美波 筆使いがていねいで余白が美しい作品。

真結子 名前まで気を抜かず書き上げた。
穂乃花 のびのある線で形も美しい作品。
岩村正次 じっくりと紙面に向かう様子を感じる作。

池上愛莉 正しい筆づかいで書けた明るい作品。
宮本優香 落ちついて、ていねいに書きました。
稲元 碧 形・配置共に良くさわやかな作品です。

薄井香花 太い線で紙面一杯、元気に書きました。
杏 菜 すなおに、力強く書けて大変良いです。

か ほ 元氣よくのびのびとしています。
り ん 心をこめて一生けんめい書きましたね。
葉之介 うでを大きくうごかせてりっぱです。

みさき かたががよく、すばらしい。

半紙 随意

評 杉 山 窓 影

北川深雅 素直な線で丁寧な筆運びをした秀作。
北村匠伍 一点一画、心をこめて仕上げましたね。
吉橋優香 太く形よく、のびのびと書けています。
矢野太一 力づくどうどうとりっぱに書けました。

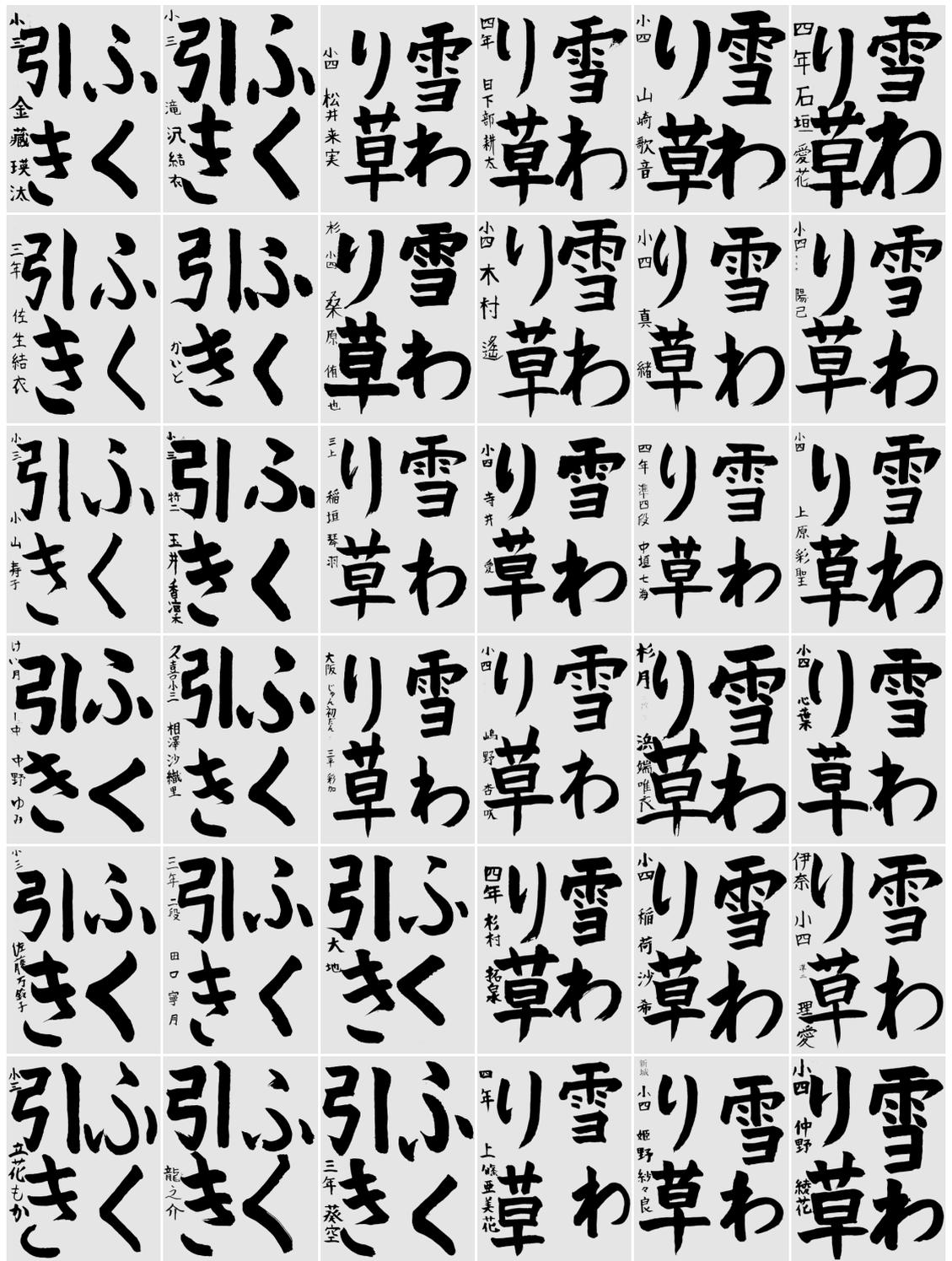
このページに掲載された人には書家会より記念の筆をさし上げます。

六年七段 大坪千鈔 世界 平和	上尾小六 麻璃香 世界 平和	中一 辺見紀香 初雪が 降る	中一 優維 初雪が 降る	中三 大野里花子 新春第 一步	中二 左司りん 新春第 一步
李光 六年 準七 紀條 世界 平和	六年 中沢愛美 世界 平和	中一 高岩悠 初雪が 降る	中一 平野晴菜 初雪が 降る	中二 市川薫 新春第 一步	中二 天音 新春第 一步
小六 荊彩 世界 平和	小六 明里 世界 平和	中一 昇我 初雪が 降る	中一 榎本麻衣花 初雪が 降る	中二 橋本望美 新春第 一步	中二 清水満衣 新春第 一步
小六 塩谷咲希 世界 平和	小六 沖山 世界 平和	中一 湯下壺木 初雪が 降る	土筆 中一 山崎ひかり 初雪が 降る	中二 深雅 初雪が 降る	中二 特待生 流逸 新春第 一步
六年 星野愛 世界 平和	小六 倉本純 世界 平和	中一 三根 福場咲星 初雪が 降る	中一 徳竹凜 初雪が 降る	中一 深野春花 初雪が 降る	船橋 中二 三段本間 彩優花 新春第 一步
五年 岡田桃奈 の正 朝	六年 井田愛美 世界 平和	六年 花園 世界 平和	中一 七段 美徳 初雪が 降る	中二 佐久間 桃 初雪が 降る	中二 高田 奈耶 新春第 一步

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|------|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|-----|----|------|----|----|-----|----|----|----|----|--------|----|
| 硯 | 〔小五〕 | 正桂 | 華雪 | 一絵 | 李光 | 皓花 | 東陽 | 志摩 | 秀雪 | 蓮田 | 千曲 | 上尾 | 湊 | 〔小六〕 | 小光 | 北府 | 荷葉 | 柏心 | 名東 | 中野 | 土筆 | 虹苑 | ひま | 八潮 | 華雪 | 玄樸 | 〔中一〕 | みな | 源創 | 硯 | 霞墨 | 船橋 | 飯山 | 秀雪 | 〔中二・三〕 | 有象 |
| 岡田 | 星野 | 塩谷 | 中村 | 岩崎 | 大坪 | 井田 | 鈴木 | 沖山 | 原 | 中沢 | 赤羽 | 花岡 | 奈奈 | 稲場 | 湯下 | 表 | 高宮 | 辺見 | 松村 | 徳竹 | 山崎 | 榎本 | 平野 | 赤坂 | 佐久間 | 深野 | 北川 | 橋本 | 市川 | 大野 | 高田 | 本間 | 渡邊 | 清水 | 平松 | 庄司 |
| 桃奈 | 愛真 | 咲希 | 莉彩 | 妃捺 | 千鈔 | 愛美 | 結乃 | 菜乃 | 明里 | 愛美 | 麻璃香 | 奈奈 | 咲星 | 亞末 | 昇我 | 悠 | 紀香 | 美徳 | 凜 | ひかり | 衣花 | 晴菜 | 優維 | 桃 | 春花 | 深雅 | 望美 | 薫 | 奈那 | 彩優花 | 琳 | 満衣 | 天音 | りん | | |

道七 の正月 朝月	李光五 の正月 朝月	賢成 の正月 朝月	小五 の正月 朝月	小五 の正月 朝月	鈴鹿 の正月 朝月
聖小五 の正月 朝月	土筆 の正月 朝月	小五 の正月 朝月	小五 の正月 朝月	五年 の正月 朝月	小五 の正月 朝月
小五 の正月 朝月	小五 の正月 朝月	小五 の正月 朝月	の正月 朝月	五年 の正月 朝月	の正月 朝月
小五 の正月 朝月	小五 の正月 朝月	美菜 の正月 朝月	五年 の正月 朝月	仙台 の正月 朝月	小五 の正月 朝月
小五 の正月 朝月	小五 の正月 朝月	五年 の正月 朝月	龍文 の正月 朝月	五年 の正月 朝月	杉小五 の正月 朝月
小四 の正月 朝月	小五 の正月 朝月	小五 の正月 朝月	小五 の正月 朝月	小五 の正月 朝月	有穂 の正月 朝月

光丘 華雪 前原 凜心 聖 芙二 御代 綾華 青雲 城彩 土筆 李光 優生 書之 美菜 玄嶽 茅野 玄樸 珠悠 龍文 山愛 松戸 若葉 霞墨 光丘 純心 仙台 シー 芙五 若宮 有穂 杉 倭 溪月 鈴鹿
 八橋咲瑛子 森本紗和子 西尾 真菜 山本朱々羽 茂呂 果恋 小林 心美 加藤 由那 今村 康太郎 幸那 和月 沙羅 昭太 香奈 藤澤 りな 賢成 丸口 紗奈 古内 うらら 清水 穂乃 林田 あかり 長山 麻緒 前野 琴音 岩田 志穂 高橋 咲良 南希 小遥 齋藤 あずさ 新垣 里佳 柳下 昂太郎 市川 彩春 山下 典剛 羽田 遥 濱野 沙



竹華 倭立花 溪月 中野 若竹 小山 好野 佐生 照澤 金藏 山愛 近正 皓花 田口 久喜 相澤 芙五 玉井 桑 渡辺 須坂 滝沢 平成 源関 龍文 檜村 大坂 三平 美一 稲垣 杉 桑原 富士 松井 湊 上條 大田 杉村 葉月 嶋野 有象 寺井 大象 木村 若竹 日下部 新城 姫野 中央 稲荷 杉月 浜端 皓花 中垣 霞墨 山崎 硯扇 仲野 伊奈 丸山 月 坂下 高社 上原 華雪 稲葉 サン 石垣 愛花

六下 ともぎ	もち	小一 やなぎはらりお	もち	いはたご	いはたご	引ふきく	引ふきく
小一	もち	二下 めい	もち	いはたご	いはたご	引ふきく	引ふきく
二下	もち	小一 すえひちあや	もち	いはたご	いはたご	引ふきく	引ふきく
小一	もち	小一 ほら山おのり	もち	いはたご	いはたご	引ふきく	引ふきく
小一	もち	小一 かないみいな	もち	いはたご	いはたご	引ふきく	引ふきく
小一	もち	二年 ことぬ	もち	いはたご	いはたご	引ふきく	引ふきく

華雪 大阪 龍文 松聲 雅部 峰 湊 練馬 中野 宝春 芙二 凜心 高風 北府 芙二 練馬 飯山 山愛 有虹 内藤 有穂 玄奈 若松 和 倚雲 大淀 一葉 美苑 珠紅 華雪 大泉 茜 芙二 三池 秀雪
 野間 原内 廣部 大澤 渡辺 田村 金井 原山 車 長谷 柳原 川崎 岩崎 櫻井 末弘 梨子 柳沢 大野 加藤 柿澤 小澤 加藤 齋藤 橋本 井上 檜浦 井上 三宅 金子 鴨原 稲垣 坂口 植草 小宮 今井
 瑤子 実花 ゆめ 沙紀 薫 友貴 琴海 実莉 悠愛 萌衣 里緒 藍 真緒 璃子 彩乃 茜 心美 咲花 日菜 昂成 美桜 心

関戸古今は現代の仮名作家
に最もよろこばれてゐる書
風となつてゐる。玄黙師大慶

空海が見た中国の都長安
は、活気にあふれ新鮮な
発見が多かつた。雜文部 中二 蓮正院
森田玲海

冬休みに一人で秋田に行き
雪国のくらしを体験してみ
ようと思ひます。光名部 初
真鳥萌乃

冬休みに一人で秋田に行き
雪国のくらしを体験してみ
ようと思ひます。山愛部 五 蓮正院
小澤未幸

書きぞめの宿題をやつた。
字の形や大きき、バランス
に注意した。台優美子

書きぞめの宿題をやつた。
字の形や大きき、バランス
に注意した。山愛部 五 蓮正院
佐々木花菜

ぼくのゆめは、
ちゆうひしになう
ちゆうひしになう
ちゆうひしになう
とだ。行しになう
とだ。行しになう
とだ。行しになう

関戸古今は現代の仮名作家
に最もよろこばれてゐる書
風となつてゐる。書果 竹松

空海が見た中国の都長安
は、活気にあふれ新鮮な
発見が多かつた。中野夏輝

冬休みに一人で秋田に行き
雪国のくらしを体験してみ
ようと思ひます。静六
鈴木そら

冬休みに一人で秋田に行き
雪国のくらしを体験してみ
ようと思ひます。一葉部 五 蓮正院
山崎愛菜

書きぞめの宿題をやつた。
字の形や大きき、バランス
に注意した。玄黙部 五 蓮正院
伊藤若馬

書きぞめの宿題をやつた。
字の形や大きき、バランス
に注意した。山愛部 五 蓮正院
山本果歩

ぼくのゆめは、
ちゆうひしになう
ちゆうひしになう
ちゆうひしになう
とだ。行しになう
とだ。行しになう
とだ。行しになう

人間は一茎の華にすぎない自然
の中で最も弱くもだが、それは
考える筆である。苗穂二
坂口菊佳

空海が見た中国の都長安
は、活気にあふれ新鮮な
発見が多かつた。中二 蓮正院
古川遙口

冬休みに一人で秋田に行き
雪国のくらしを体験してみ
ようと思ひます。愛心部 六
若田妙弥

書きぞめの宿題をやつた。
字の形や大きき、バランス
に注意した。美菜部 四 蓮正院
井伊彩月

書きぞめの宿題をやつた。
字の形や大きき、バランス
に注意した。山愛部 五 蓮正院
山田愛

書きぞめの宿題をやつた。
字の形や大きき、バランス
に注意した。山愛部 五 蓮正院
本村まよ

ぼくのゆめは、
ちゆうひしになう
ちゆうひしになう
ちゆうひしになう
とだ。行しになう
とだ。行しになう
とだ。行しになう

空海が見た中国の都長安
は、活気にあふれ新鮮な
発見が多かつた。中二 蓮正院
梶原世者

冬休みに一人で秋田に行き
雪国のくらしを体験してみ
ようと思ひます。正院部 六 五
関上立

冬休みに一人で秋田に行き
雪国のくらしを体験してみ
ようと思ひます。聖部 五 蓮正院
宮下慧

書きぞめの宿題をやつた。
字の形や大きき、バランス
に注意した。山愛部 五 蓮正院
深川ひなた

〔硬筆〕

〔一般〕

- 玄黙 豊田 大慶
書集 竹本 谿山
西 坂口 有佳
〔中学〕
凛心 梶原 世浩
雅 森田 玲海
中央 平野 夏輝
大象 古川 遥
〔小五・六〕
正桂 関上 立
光丘 真嶋 萌乃
静 鈴木 乃
愛心 岩田 紗

〔小三・四〕

- 山愛 小澤 未幸
一葉 山崎 愛菜
美菜 井伊 彩月
倭 深川 ひなた
有象 台 優美子
玄樸 伊藤 蒼馬
霞墨 山田 愛
虹友 佐々木 花菜
〔小一・二〕
華雪 山本 果歩
大阪 岡上 真弥
大 村上 祐人
玄黙 下村 遥香
有虹 山本 優衣

第724回
競書成績

□写真版
☆秀作
○昇級

Table with multiple columns containing names and characters. The first column lists names like 寿台秀昭, 子意, 董星, etc. The second column contains various characters and symbols. The table is organized into several rows of data.

笠静文水書玄大御若玄袴袴蔵 玄童玄 蒼玄産東松玄聖長自長小杉長巍 袴笠一神若国富 志静央靑靑 珠琉国サ葉 北
原 化代集様象牧竹横森花 黙 横 穹成吉陽風松玄聖長自長小杉長巍 袴笠一神若国富 志静央靑靑 墨雲 基 悠天府ノ月 府

古典研究

研究

究

Main table containing names and numbers, organized into columns and rows. Includes a central section for '小・中学校の部' (Elementary and Junior High School Division) with '愛心支部' (Aikoin Branch) and '往郷支部' (Wakou Branch).

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

Table with 10 columns and 25 rows of Japanese text. Each cell contains a name and a classification code (e.g., 3特8, 中1下). The text is organized into vertical columns, with some cells containing specific branch names like '虹友支部' or '山愛支部'.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

瑞輝・杉・須坂・鈴鹿・靉・靉雲・正柱・成城・靉雲・碩雲・石峯・仙台・蒼鶯・大泉雲・たけのこ・竹華・千曲・茅野・中央・長寿原・月・土筆・汀楓・照澤・東陽・内藤・中野・練馬

Main table containing names and their corresponding grades/levels. The table is organized into columns and rows, with names written in kanji and their grades indicated by numbers and symbols like '級', '段', '初', '特', etc. Some names are grouped under specific club names like '杉支部', '鈴鹿支部', etc.

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

Table with multiple columns and rows containing names, grades, and symbols. The table is organized into sections by club or region, with names listed in columns and their corresponding grades or status in rows. Symbols like stars and triangles are used to denote specific categories or achievements.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

第78回 謙慎書道会展

第一会場・東京都美術館
期 日・3月20日(日)～3月28日(月)
 3月22日(火)は休館日
 午前9時30分～午後5時30分まで
 (入場は閉室の30分前まで。最終日は午後2時閉会)

第二会場・池袋サンシャインシティ
ワールドインポートマートビル4階
期 日・3月19日(土)～3月27日(日)
 午前10時～午後6時まで
 (入場は閉館の30分前まで。最終日は午後4時30分閉会)

◇第二会場には特別賞選考委員の小作品を展示いたします◇

主 催 ・ 謙 慎 書 道 会 社
後 援 ・ 読 売 新 聞 社

【第一会場 東京都美術館】

〈デモンストレーション〉 3月20日(日) 11時・14時
 〈ギャラリートーク〉 3月21日(月・休) 11時・14時
 3月23日(水) 11時・14時
 3月24日(木) 11時・14時

〈特別企画〉

『文字の動物園』 3月20日(日)～27日(日) 10時～16時30分

【第二会場 池袋サンシャインシティワールドインポートマートビル4階】

〈ギャラリートーク〉 3月19日(土)～25日(金) 14時

〈特別企画〉

『文字の水族館』 3月19日(土)～27日(日) 10時30分～17時
 (最終日は15時終了)



氏名

代 発 行 人 (有) 書 子 象
 表 上 條 貞 六
 東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三二六
 郵便番号 180-0001 電話 〇四三(五三)九七四三
 振替口座 〇〇一九〇一七一二五六九一
 振替名儀 (有) 書 象
 印刷所 株式会社 リンクス 象

平成28年度 書象会夏季合宿錬成会

会 場 静岡県 浜名湖ロイヤルホテル
会 期 平成28年 8月 7日(日)～9日(火)
定 員 250名 (6月より受付開始)
その他 ホテル内での広い錬成場が得られました。
 詳細は5月中旬にお知らせします。

〈研 修 部〉